科目名	必修/選択	単位数	学年	学科
数学応用	選択	2	3	普通科

科目の概要	<p>□複素数を複素数平面を用いて図形的に表現することで、複素数の諸演算が平面上の図形的な性質として理解するとともに、複素数を用いて図形の性質を考察できるようになる。いろいろな関数を学び、関数概念について理解を深める。</p> <p>□2次曲線の基本的な性質および曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする</p>
-------	--

教材名	教科書	数学C (数研出版)
	副教材	新課程 4STEP 数学Ⅲ+C (数研出版)

担当者	宮野 昌彦、加藤 文子、齋藤 晃
-----	------------------

学習到達目標	平面上の曲線と複素数平面についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。
--------	--

学習方法	<p>教科書の内容を解説、演習を中心に授業を進めます。進度は速いので、できるだけ予習をして、授業に望むことを期待します。また、学習内容を定着させるために問題集「サクシード」で基礎演習も進めてください。</p> <p>教科書の内容を終えたら、問題集を用いて、改めて復習する予定です。</p> <p>また、自主的に問題集に挑戦し、学習を深め、対応力を向上させてください。</p>
------	---

評価基準と評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み	課題の取り組み状況 授業に対する姿勢 テストに向けての取り組み
	A	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70～100	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70～100	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70～100
	B	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30～69.9	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30～69.9	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30～69.9
	C	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9

年間学習計画

月	章・単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)		
4	第3章 複素数平面	複素数を使って距離や絶対値、内分・外分、三角形の辺の比や角の大きさを求め、複素数の等式が表す図形を理解して平面図形への応用力を身につけさせる。	6	前期中間考査		
5	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線	放物線、楕円、双曲線について、幾何学的な定義に基づいて曲線の方程式を導き、それぞれの曲線の基本的な性質について理解させる。また、2次曲線と直線の共有点の個数と判別式との関連や直線との位置関係及び平行移動について理解させる。放物線、楕円の媒介変数表示から一般の曲線の媒介変数表示について理解させる。また、サイクロイドのように、x座標とy座標の直接の関係がわからないような曲線についても、媒介変数表示できる事を示す。さらに、平面上の点や図形を表す他の方法として、極座標、極方程式があることを示し理解させる。	15			
6						
7					第2節 媒介変数表示と極座標	2
8					【単元終了後、入試問題演習】	2
9					【課題研究】 □平面上の図形	4
10	□空間図形	4				
11	□複素数平面	3				
12	□極座標	3				
	【テーマ学習・発表】	3				